

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1884 号

Yellow tongue coating is associated with diabetes mellitus among Japanese non-smoking men and women: The Toon Health Study

(日本人非喫煙者男女における黄苔と糖尿病との関連：東温スタディ)

友岡 清秀 (ともおか きよひで)

博士 (医学)

論文内容の要旨

Ⅱ型糖尿病は、舌病変などの口腔粘膜疾患と強く関連している。しかしながら、これまでに東洋医学における舌診所見である黄苔とⅡ型糖尿病との関連に着目した報告はほとんどない。そこで、我々は地域住民を対象に黄苔と糖尿病との関連について横断的に検討した。本研究は、2011年7月から2014年11月の間に愛媛県東温市で行われている循環器詳細検診「東温スタディ」に参加した30から79歳の非喫煙者の男性315名、女性654名を対象とした。舌苔は一人の鍼灸師により評価され、白苔(正常)、白黄苔、黄苔の3段階で分類された。75gブドウ糖負荷試験により糖尿病型及び境界型糖尿病を定義した。統計解析は、黄苔と糖尿病及び境界型糖尿病との関連について、年齢、性別、Body mass index、飲酒習慣、身体活動量を調整した、多変量ロジスティック回帰分析を行った。糖尿病を有する者の多変量調整オッズ比(95%信頼区間)は、白苔に対して、白黄苔では1.39(0.72-2.67, $p = 0.33$)、黄苔では2.23(1.16-4.30, $p = 0.02$)であった。同様に、境界型糖尿病の多変量調整オッズ比(95%信頼区間)は、1.13(0.80-1.61, $p = 0.18$)と1.43(0.96-2.12, $p = 0.08$)であった。本研究により、日本人の一般集団において、黄苔を有する者では、糖尿病を有する者の割合が有意に高く、また境界型糖尿病を有する者の割合もやや有意に高いことが示された。